

3 シンポジウム

(2) 今後の対応について【調布市】

(調布市 長友市長)

図らずも年の話が出まして、私も市長になった時は40代だったのですが、もう10年目になってしまって、早いものだなあと感じております。

東日本大震災に関する対応状況、さっき見ていただいて、遠野へのボランティア派遣ツアーのところまで見ていただいたんで、そこを1、2枚めくっておいて下さい。そうすると市立第一小学校のシミュレーションというページがありますから、そこからドキュメンタリータッチでお話をさせていただこうかと思っております。

まず遅まきながらということ言えば、福生の皆さん、ありがとうございます。大変な御準備をしていただき、また、時期にかなったテーマを今日は用意していただいたということで、大変私どもにとってもありがたい。3月11日以来、色々な事を考えていまして、今私どもが考えておりますのは、より現実的な激甚災害に対するマニュアルを、一刻も早く作らなければならないのではないかとことです。どこもお考えだとは思いますが、「調布モデル」「調布方式」みたいなものを公表することが適当であれば、そうさせていただいて各自自治体からの御意見をいただいて、皆でより良いものを共有して行きたいと思っております。

このシミュレーションでございますが、多摩地域を震源とする直下型震度7、平成23年10月11日火曜日午前11時24分、これは別に意味がまったくない訳ではなくて、冬であれば夏であれば全く対応が違う訳です。それが午前中というのがミソで、私どもが今から御説明することは、避難所をどうやって運営して行くかということにあります。児童・生徒が全部いるということです。これが午前中に想定したところでございます。それから天候は雨、活動しにくい雨。全面交通機関は運行停止、主要幹線通行不能、または大渋滞。それから上下水道、電気ガス供給停止。ですから津波の心配はあまりしていませんけれども、大火災が都会型、人口密集の中で道路は不通、死傷者多数、避難所大混乱、市の職員は現地避難所まで行くのは無理。我々は貼りつける人員まで決めているのですが、良く考えたら昼間起こったら避難所まで行けない。そうするとどうやって避難所を運営して行くのかということになる訳でございます。シミュレーションの必要事項といたしまして、要支援対象者を限ろうということになりました。まず遺体の収容・安置、重病人、要介護高齢者、障害者、乳幼児、妊婦、この人たちをどうするか。生活支援では言うまでもなく、食・飲料、

生活物資、トイレ、健康確認、こういうことが情報提供と共に必要になって来ると。

そこで先ほどの市立第一小学校のシミュレーションを見ていただきたいのですが、平均的に言って、私どもは数百人の5・6百人の児童がいるところ、40人位の教職員、ただ色々な事情で動いていただける方は、家にも帰らなければならぬという方もいますから6割程度。そうすると20数人位でどうやって避難所を運営して行くかということを考えました。1ページ目に情報連絡から搬出まで、児童生徒対応にはこれだけの係が必要なのではないかと。それと共に数百人、千人位の避難民が来る訳でありますから、避難所支援ということでは、この1ページから2ページに書いてあるような係が必要です。これを貼り付けておくと、シミュレーションを繰り返しておくということを今までやって来なかった訳でありますから、これをやらなければということで、教育委員会及び危機管理部門の職員に、本当に短い時間でこういうものを作ってもらったということ今から御説明をしたいと思っております。

最初の2・3日が死線を分ける訳でございます。東日本大震災でも、阪神・淡路大震災でも。その間にやれること。我々は「死ぬな市民」ということで考えさせていただきたい。2ページ目に1日目、主にこの吹き出しの様な丸いだけ見ていただければ、雰囲気を感じていただけたらと思っております。すでに用意をしていたように、すぐに避難所運営に校長以下あたっていただくということでございます。備蓄品、鍵の確認、そして3ページ目、教室の使用案もすでに出来ている訳ですから、ここに速やかに人を貼り付けて作業を開始すると。備蓄品を確認しながら、トイレは携帯トイレをすでに用意してあると。そして4ページ目、情報収集から救護衛生係、こういうものが1日目に早速行動を開始すると。私は非常に乱暴な事を言っております、健康な大人はほっておけと。自分で動いてもらう、危なくないところに避難して来たら自分で身を守っていただく。さっき申し上げましたような、誰を守らなさいいけないのか。一人でも死人を少なくするようにと。これが我々のなすべき仕事ではないかと思っております。備蓄倉庫も気にするな、東京の街の真ん中で1日2日待てば、食えない位食料がやって来ると、上から降って来ると。1日2日、1食2食、食べなくても死ぬことはない。誰を介護するのか、そのことに専心すべきだと。非常に挑発的な事を春以来言っております、そういう視点でこれを考えて行こうとしている訳でございます。

それで第1日目は混乱の中でも、用意をしていたような作業が進行して行く。2日目になると8ページ目、避難所対応の中で帰ってもらった教職員がやって来ますから、交代をする中でより問題点を絞って対策会議を繰り返しながら、2日目重病になった方、大きなけがをした方、道が通じてないところをどうや

って病院に運ぶのか。すでに消防団の人員と近隣に医者の方は分かっている訳ですから、こういうような人に徹底して、私どもに対するサポートをお願いしておくということで、やりうる範囲はその中だけでやっていこうと言う訳であります。

それが12ページまでありますから、後で見ていただくとして、その後に市立第三中学校のシミュレーションの抜粋がございます。これは何かと言うと、中学校でやるということと、川が近いところなので多摩川の氾濫想定も入れなければならないということで、中学校バージョンも考えている訳であります。川が氾濫した時の対応と、もう一つは小学校は考えないけれども中学校以上は、公立の高校も3校あります。国立大学、私立大学もあります。中学生以上はどうせ家に帰せないんですから、避難のサポート要員として仕事をしてもらおうと想定しております。そうでなければ、人手が足りなくてとてもやっていけないただろうということであります。そういうことを考えて、2ページ目から3ページ目にトイレの問題、情報収集の下真ん中あたり、多摩川の氾濫というのを想定していると。それから4ページ目開けていただいて、中学生の奉仕活動。これは事前に親にはもちろんことわった上で、理解を得た上で中学生に働いてもらおうと。ページをめくっていただくと、中学生のボランティア活動、色々な風に避難して来られた方に対するケアに当たってもらう人員になるということを考えてやっております。

限られた時間ですので、これ以上の細かいことは後ほどもし御質問があったら、考えていることをお答えいたしますけれども、私どもはこれを管理したものを秋のシーズン、今各地で防災訓練がそろそろ始まりました。そういうところに投げかけて、今まで想定しなかったことを一つでも二つでも組み合わせて実践的なことをやってくれと、これを今年度からお願いをして行きたいと。そのためにこういうものを作っているということであります。色々智恵を拝借した上で、これを管理させて行きたいと思うところであります。

以上です。

(福生市 加藤市長)

長友市長、ありがとうございました。

今、多摩川の氾濫というお話が出ましたが、先ほどシンポジウムが始まる前に控室で話したのですが、平成19年に多摩川で大変な増水が起こりました。台風でございますけれども、福生市でも多摩川中央公園、南公園が壊滅的なダメージを受けた訳ですが、その時も今ちょうど一昨日、様々な形で避難勧告・避難指示が市町村から出されていますけれども、平成19年の時も長友市長、

避難指示を出すかどうか大変迷われたという話を、多摩川の氾濫という話が出たので、市長の判断がすごく難しいなと感じました。ありがとうございました。